

2019年2月NHK中部地方放送番組審議会

2月のNHK中部地方放送番組審議会は、21日（木）、NHK名古屋放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「2019年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」についての報告があった。引き続き、「2019年度中部地方向け地域放送番組編集計画（案）」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。

続いて、ドラマ10 トクサツガガガ(1)「トクサツジョシ」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	小澤 正俊	（大同特殊鋼（株）相談役）
副委員長	東 恵子	（東海大学海洋学部環境社会学科教授）
委員	井口 昭久	（愛知淑徳大学健康医療科学部教授）
	稲村 修	（魚津水族館館長）
	坂田 守史	（（株）デザインスタジオ・ビネン取締役）
	玉井 博祐	（能楽師／玉井屋本舗社長）
	徳田 八十吉	（徳田八十吉陶房代表）
	松田 裕子	（三重大学副学長）
	真能 秀久	（中日新聞社取締役人事労務担当）

（主な発言）

<「2019年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について>

- 全体的にはよいと思うが、視聴率を追いかけすぎた番組が多いと感じる。
- BS4K・BS8K放送の開始やインターネットによるサービスなどNHKの存在感が増す中で、民放との共存についても考えてほしい。また、視聴者目線や多様な価値観について、よりいっそう意識する必要があると感じる。

- 公共メディアとして情報の社会的基盤となるということと、若者や現役世代に見てもらえる番組を制作することとの整合性が取れているのか、疑問に感じる。たとえ若者が見ていないとしても、NHKは社会が気付いていない問題提起やさまざまな視点や論点を提供することが大切だと思う。時代の変化に対応するとともに、NHKらしさや取材力が保たれているか、常に自問自答してほしい。さまざまな視点や論点、多様な価値観を提供することがNHKの役割だと思うが、一部の番組は制作者の視点に偏っているものもあると感じる。取材を深掘りしたり、シリーズ化したりするなど、改善してほしい。

<「2019年度中部地方向け地域放送番組編集計画（案）」について>

- 人口減少や自然災害などさまざまな課題が山積しているので、そうした課題を報道するとともに、視聴者をよりよい方向にリードできるような番組制作に努めてほしい。また、防災・減災についてはきめ細かな報道と、ラジオの活用にも期待したい。放送局が連携した番組制作、地域の情報を世界にも発信することにも取り組んでほしい。
- 災害時などに身近な河川の状態がわかるようになることに期待している。また大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした地域活性化にも期待している。夜間の番組編成については、若者だけが起きているとは限らないので、さまざまな視聴者層に配慮してほしい。
- 「ナビゲーション」は毎回番組のテーマが新鮮でよいと思うが、最後まで構成をしっかり練ってほしい。また、NHKで放送することを視聴者は信用するので、しっかり取材の裏付けを取ったうえで番組を制作してほしい。
- 福井県内の北陸新幹線の状況についてどう伝えていくか関心がある。原発の廃炉についてさまざまな報道があるが、先行事例として「ふげん」の廃炉の状況も報道してほしい。
- 各放送局の編集計画は2020年の後の時代も見据えており、よいと思う。北

陸3県が連携し、地域の情報をお互いに取り上げるということもよい。

- 2019年は「伊勢湾台風」から60年の節目なので、さまざまな角度から取り上げてほしい。また、地域を代表するグローバル企業の内部の情報をもっと取材してほしい。また、そうした地域の企業の役に立つ情報も発信してほしい。
- 災害に備えるという視点は心強いと思う。地域を取り上げた番組を、地域や全国だけでなく、世界に向けて発信してほしい。
- 地域を取り上げた4K・8Kのコンテンツを、国内だけでなく海外にも発信してほしい。また、ラジオは災害時など重要なメディアなので、ラジオにも力を入れてほしい。
- 世界的に未来が見通せない時代の中で、情報の正確性を担保するための仕組みや人材、拠点の整備に努めてほしい。また、海外メディアの情報が多すぎると感じる。NHK独自の情報網で、質が高く深みのある情報を提供してほしい。地域放送局同士の連携も強化してほしい。
- 諮問された「2019中部地方向け地域放送番組編集計画（案）」については、委員から出された意見の趣旨が具体的な番組編成のうえで生かされることを前提に、番組審議会として原案を可とする答申をしたい。
- 異議なし。

(NHK側)

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、3月の審議会にて編成計画についてご説明する。

<ドラマ10 トクサツガガガ(1)「トクサツジョシ」

1月18日(金)放送について>

- 「オタク」を主人公としたドラマがNHKで放送されることで、かつては文

化的マイノリティという意味で捉えられていた「オタク」という言葉が、よい意味で捉えられる時代になったとのだ感じる。オタクらしい妄想のリアルな描写がすばらしく、オタクの人たちの共感が得られたのではないか。いかにも悪役が登場するとわかる背景の描写など特撮にも工夫をこらしており、細部にわたり原作の世界観をふまえながらテレビドラマとしておもしろく表現されていた。

○ オタクの主人公に感情移入できず、妄想や回想といった心の声が多く展開がわかりにくかったが、悩んでいる人やコンプレックスがある人に向けたメッセージ性があり、よかった。また、ドラマに登場する小道具が細部にこだわった作りになっており、すごいと感じた。セリフを文字として表示するなど演出も新鮮で、わかりやすかった。キャスティングもよく、出演者の丁寧な演技に好感が持てた。漫画を原作としたチャレンジングなドラマで万人向けではなく見る人を選ぶのではないかと思ったが、登場人物がみな善良で、老若男女問わず安心して見ることができた。設定や展開は常軌を逸していたが、社会で役に立つ格言のようなセリフもあり、登場人物の成長やピュアな世界が描かれたドラマだったと感じた。劇中劇の特撮シーンが本格的で驚いた。また、主題歌の歌詞や曲調もドラマにぴったりと合っていた。第1話は、ドラマのワンシーンであったはずの冒頭の特撮映像の完成度が高く、制作者の気概を感じた。一方で、唐突に「隠れキリシタン」を引き合いに出した場面は違和感があった。第2話以降は、友達ができて会話が増えることで、ドラマとして、見やすくなってきたと思う。全体を通して、主人公の生活サイクルに違和感があった。明るい時間に仕事が終わる塾に行く小学生と公園で遊ぶといった場面から、働き方改革が強調されているのかと感じた。会社の場面が多かった割には、どんな仕事をしているのかわからず、職場のリアリティが欠けているという印象だった。

○ 現実の世界と空想の世界のストーリーが、説明も脈絡もなく交錯しており、唐突感があった。ストーリーに伏線があるわけでもなく、深みのないエピソードや、総論と各論、本音と建前、古さと新しさといった要素が次から次へと展開されていく印象だった。結局何が何だかわからなかったが、見終わってみたら案外おもしろかった。主人公は特撮が好きということだが、自分は特撮の魅

力がわからないので、どういったところが魅力なのかもっと説明がほしかった。一方で、現実の会社の場面は上手に描かれていたと思う。役者の演技もうまく、人間模様がリアルに描かれていた。特に子役の演技がうまく、ドラマに溶け込んでいたし、子役がいることで主人公の演技も自然に感じた。

- 「トクサツ」が特殊撮影の略だとわかりにくく、特撮と聞いて怪獣映画をイメージする世代にとってはどのようなドラマなのか判断できず、ドラマのタイトルとしては万人向けではないと感じた。主人公が隠れ特撮オタクという設定で、特撮が好きなことをひた隠しにしていたが、そこまで好きなことを隠さなければ会社で生きていけないのかと思い、違和感があった。ストーリー展開に疑問が多く、ついていけなかった。新しい路線のドラマなのかもしれないが、物足りなかった。
- これまでに見たことがない世界観だった。特撮が好きなことをなぜオープンにはいけないのか疑問に思った。主人公の世代であれば恋愛や旅行など、人生をおう歌する時期なのに登場人物が会社の同僚や母親、子どもばかりで特撮中心の世界にいるという設定を残念に感じた。一方で、特撮の場面には迫力があり、名古屋ならではの撮影場所、主人公や周囲の人物のドタバタもあり見続けていくうちに引き込まれていった。主人公の小芝風花さんの演技がすばらしく、共感できた。名古屋の風景にも溶け込んでいたのではないかな。
- 漫画を原作としたコメディードラマらしく、展開や場面の切り替えが早く、さまざまな映像技術を駆使しながら、空想の描写や特撮シーン、音楽も含めてすばらしかった。出演者もそれぞれ魅力的で個性が光っていた。主人公の小芝風花さんは演技がコミカルでかわいかった。一方で、特撮ヒーローにはなじみがなく心を動かされなかった。また、なぜ主人公が隠れ特撮オタクではいけないのかということが理解できなかった。ただ、ネット上の評判もよく、新たな視聴者獲得のためのコンテンツとしては有効だと思った。
- 名古屋のさまざまな場所で撮影されており、思い当たる場所がたくさんあったが、ドラマにおける場面の設定と撮影場所の実際の環境がかい離しており、違和感があった。実写の映像には力がある分、制作者の意図とは異なる

撮影場所の情報が入ってきてしまうことも意識してほしい。一方で、主人公の小芝風花さんをはじめ役者に力量があり、明るい原色を用いた色彩や特撮の映像もいきていた。エンターテインメントを提供することもテレビの役割だと思うが、NHKでやるべきドラマなのかと疑問に思った。

- ドラマの世界観はおもしろく、身近な子どもの行動を想起させる場面もあり、主人公の心に沿って見ることができた。子役が登場すると安心して見ることができた。一方で、新境地を開拓する試みだとは思いますが、さまざまな場面の展開に視覚的についていけないことが多く、戸惑った。だが、セリフや効果音は原作である漫画の世界観を描いているのだと納得した。特撮オタクを「隠れキリシタン」と表現し、仲間を見分ける方法をイラストで解説した場面や、動物の彫刻をモチーフに主人公の心理を描写した場面はおもしろかった。また、個性的な怪人が登場した場面には驚いた。「リアタイ世代」「黒歴史」といった言葉が当たり前のように使われており、思わずインターネットで調べてしまった。

- 主人公の小芝風花さんの演技に熱が入っており、他の出演者も嫌みのない演技で、ネガティブなイメージもあるオタクの世界を、ドラマチックに、ポジティブに描いており興味深かった。子どものころあこがれた特撮ヒーローが大人になっても日常生活に深く影響しているという特撮オタクの世界に驚いた。名古屋のさまざまな風景を見せることでよい効果もあるのではないかと感じたが、個人主義の行き過ぎや社会の分断に拍車をかけることのないように意識してほしい。文字で心の動きを表現する演出はインターネットの動画共有サービスのように驚いた。漫画を原作としたテレビドラマだったが、さまざまなメディアをまたいだ実験をしているような印象だった。一方で、ドラマの真のねらいは何だったのか疑問に感じた。周囲の反応もとてもよく、原作の再現度が高く、原作を読んだ人にとっては楽しく見るができるのではないかと、特撮映像もていねいに作り込まれており質が高いと高評価だった。

(なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた。)

- 「トクサツ」というタイトルから、最新の映像技術による特殊撮影のことだと思ったが、いわゆる「戦隊モノ」の話で拍子抜けした。「オタク」と聞くと男性のイメージがあったが、女性であるから物語が成立しているのだと感じた。「オタク」を「隠れキリシタン」に見立てた発想はおもしろかった。第1回で、今後起こるであろうさまざまなイベントの芽出しがされていて、次回以降どうなるのかと思う展開だった。タイトルと副題がカタカナで統一されており、全体のイメージづくりに役立っている。漫画を原作としたドラマが多いが、小説など題材は豊富にある中で、安易な方向に流れているのではないかと感じる。NHKが制作するドラマは堅いものであるべきで、今回の題材は民放でやるべき領域だったのではないかと感じる。

(NHK側)

放送後、特撮好きの方を始め、ツイッターに多くの反響があった。多様なドラマがある中で、万人向けではないかもしれないが、原作の世界観や人との距離感といった持ち味を大事にしながら描くことで、登場人物と同じ思いを持った人たちの大きな共感を得ることができたと考えている。頂いた意見や今回の新しい試みで得られたヒントを今後にかかしていきたい。

<放送番組一般について>

- 1月27日(日)の小さな旅「みんなの湯 いつまでも～石川県 山中温泉～」を見た。山中温泉の1,300年の歴史やレトロな雰囲気がよく表れていた。番組テーマ曲も懐かしい雰囲気でよかった。山中温泉を訪れる子どもや大人の表情や声を丁寧に拾っており、歴史、風習、文化をゆったりとしたレトロな構成で紡いでおり、安心して見ることができた。山中漆器の独特な技法「加飾挽き」を初めて知り、興味深かった。ドローンの映像もきれいで、将来へのアーカイブスとしての価値の高い番組だった。
- 1月20日(日)のNHKスペシャル 平成史スクープドキュメント 第4回「安室奈美恵 最後の告白」を見た。バブル崩壊など平成の歴史をはさみながら安室さんの人生の一端と歌をつないでいくという構成に、その時々

景が思い浮かんで共感できた。声帯を傷めて声が出なくなっていたことや、プロデューサーの小室哲哉さんとのエピソード、今後に向けてなど貴重なインタビューもあり、ファンにとってエールになったのではないか。一方で、インタビューのしかたが、やや誘導するような聞き方だったことが気になった。

- 1月25日(金)の静岡スペシャル『蜜蜂と遠雷』 若きピアニストたちの「18日」(総合 後7:30~8:29 静岡県)を見た。世界各国から集まったピアニストたちの幼少のころの映像や、海外でのピアニストたちのレッスンの様子、インタビュー取材などをおして、コンクールに取り組むピアニストたちの真摯(しんし)な姿が浮き彫りになっており、とても見応えのある番組だった。コンクールではピアニストとしての幅広い能力が試されているのだということを知ることができた。審査発表の時のピアニストたちの緊張感あふれる表情は、こちらの胸が痛くなるほどだった。コンクールが開催された浜松の町としての懐の深さや、コンクールの重み、小説の朗読と文章、コンクールの審査過程の図式など、とてもわかりやすく丁寧に制作されていたと思う。
- 1月25日(金)の富山スペシャル につぼん百名山「立山」(総合 後7:30~7:57 富山県)を見た。秋の立山を、登山ガイドに連れられながら登山者目線のカメラワークで見るという演出がすばらしく、立山のよいところを網羅していた。一方で、美しくまとまりすぎていてどこか味気ない印象も持った。行ったことがないルートだが、番組を見て行ったような気持ちになり満足した。
- 1月30日(水)のガッテン!「医療の常識が大逆転!患者1330万人“腎臓病”治療革命」を見た。腎臓の働きや透析の原理などがうまく説明されていた。一方で、慢性腎臓病の一般的な治療方法として塩分制限やカロリー制限を紹介していたが、腎臓病にはいくつかの原因があり、治療方法もそれぞれ違うのではないか。また、自覚症状がほとんどないと紹介していたが、腎臓病の末期になると、倦怠感や食欲不振といった大変な自覚症状があるのではないか。
- 2月2日(土)のブラタモリ「#124 福井」を見た。一乗谷から福井城へという変遷の紹介で、足羽川の流域で産出される笏谷石で文化がつながって

いるという話はとてもわかりやすかった。一方で、一乗谷から珍しいガラスが発掘された背景には朝倉氏が足利氏と密接な関係があることや、枯れ山水の名所といった部分にふれられておらず、朝倉氏が力を持っていたという描写がやや弱いと感じた。また、一乗谷と福井城が笏谷石でつながっていたという場面でも、それ以前の古墳時代から笏谷石は使われていたという紹介があれば、より歴史的なロマンがあったのではないか。また、柴田勝家によって福井城の周辺に職人や商人が移されたのだと思うが、番組では一乗谷が滅ぼされたから自然と福井城の周辺に集まってきたという印象で、違和感があった。

- 2月8日(金)のナビゲーション「若者に広がる“ソロ活”」を見た。「会いたい時にだけ会って、楽しければよい」という若者の考え方に共感した。かつて地域社会などのコミュニティに所属していた若者が、現代はインターネットの社会と24時間つながっており、寂しくはないのだと思う。中川翔子さんの「時間は重要なので、好きなように生きられることは幸せ」「自由は大人のご褒美」という言葉が印象的だった。「結婚は必要ない」と考える人が多くなり、以前は「負け組」という言葉もあったが、結婚しないことも当たり前になったのだと感じた。

- 2月8日(金)の静岡スペシャル 釣りびと万歳「あまーいアマダイを穴から誘い出せ！内藤大助 静岡・牧之原」(総合 後7:30～7:55 静岡県)を見た。駿河湾の風景がとても美しく、初心者でもわかりやすいアマダイ釣りのテクニックが紹介されており、そのテクニックで4匹も釣り上げることができたことに感激した。また、浜辺で地元の有志が伝統的な製法で塩を作っていたり、バイ貝やアマダイの昆布締め、焼きがあったり、どれもおいしそうに食べていたが、一緒に食べたいと感じたし、自分でも釣れるかもしれないと思えた。相良港へのアクセスも紹介されており、駿河湾や相良の魅力を多くの人に発信できたのではないか。

- 2月8日(金)のぎふスペシャル コズミックフロント☆NEXT「宇宙へ挑め！岐阜県 ～空に そして宇宙へ～」(総合 後7:30～7:55 岐阜県)を見た。大戦末期に登場した戦闘機「飛燕」が、人工衛星やロケットに使うような高度な材料を使っていたということがとても興味深かった。「岐阜かかみが

はら航空宇宙博物館」にぜひ足を運んで、「飛燕」の実物や宇宙関連の展示を見たいと思わせる、よい番組だった。各務原市の岐阜基地でテストパイロットとして活躍していた油井亀美也さんが宇宙飛行士として活躍するという話に、とてもわくわくしたし、宇宙に思いをはせた。現在日本が打ち上げるロケットの先端部分が各務原市でできていると知り、宇宙を身近に感じる事ができた。

(なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた。)

- 2月10日(日)のNHKスペシャル 東京リボーン 第2集「巨大地下迷宮」を見た。知らないことばかりで、全般をとおしてワクワクしながら見ることができた。続編の放送はかなり先だが、余韻が残るうちに続編を見たいと思った。地下街の所有権者の違いによってさまざまな制約や混乱があるという着眼点はよかった。地下深くの開発についてさまざまな市民運動が起きているとは知らなかった。地下空間を災害時の避難場所にするプロジェクトなど、NHKならではの内容だった。巨大なシールドマシンが掘削するすぐ近くで、作業員が手作業で掘るようすが対照的で、地中に放置されるシールドマシンから悲哀が感じられる演出は絶妙だった。特殊なカメラで東京駅周辺の地下街を透視図化するという技術には驚いた。ナレーターが二人いたが、二人も必要なかったのではないか。
- 2月12日(火)の「時事公論」を見た。豚コレラ対策について要点がコンパクトにまとめられておりわかりやすかったが、愛知県の対応が、あたかも国の指針を遵守していないかのような表現だったと感じた。意見が対立する問題は一方だけでなく、もう一方の意見も紹介するなど、丁寧に取材してほしい。
- 2月15日(金)のナビゲーション「“豚コレラショック”～感染拡大は防げるか～」を見た。地元では以前から大きな問題意識を持って新聞報道に接しており、やっとNHKで取り上げられたという印象だった。一方で、このところ野生のイノシシへの対策についてあまり大きく取り上げられていないことに不安を感じる。
- 2月15日(金)のナビゲーション「“豚コレラショック”～感染拡大は防げるか～」を見た。喫緊の課題を素早く取り上げたよい番組だった。豚コレラ

に感染した養豚農家の現状や、まだ感染していないが豚コレラに不安を抱く養豚農家の苦悩がよくわかった。番組では野生のイノシシにワクチンを打つ対策が紹介されていたが、どのような方法で打つのが説明されておらず、わからなかった。また、ワクチンの使用は最終手段であり、その理由は「非清浄国」というレッテルを貼られることで貿易に悪影響が出るからだと説明していたが、日本はすでに「非清浄国」にも関わらずなぜワクチンを使用しないのか、という説明が不足していた。

(なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた。)

- 2月15日(金)のナビゲーション「“豚コレラショック”～感染拡大は防げるか～」を見た。養豚農家が二人出ていたが、その後の番組内容を踏まえると必要なかったのではないか。むしろ養豚農家の経営に与える影響や、産地の存続といった問題についても触れてほしかった。養豚農家にとっては、と畜費用と減収分の補てんがあったとしても、再び出荷できる状態になるまでは餌代がかかり収入がない状況が続く。しかも豚コレラ再発のリスクもあり、養豚経営を再開する意欲を持つことができるかどうか、豚コレラの問題の核心であり、もっと報道してほしい。ワクチンを使用しない理由の説明も不十分だった。ヘリコプターから撮影した映像が使用されていたが、ヘリコプターが巻き上げる粉じんによって豚コレラが拡散するリスクもあるのではないか。ヘリコプターによる撮影は自粛した方がよいのではないか。

(NHK側)

ヘリコプターについては、NHKでは法定の高度を守っている。被害が拡大しさまざまな影響も出ている問題だが、報道の影響力の大きさも考慮しながら引き続き正確な報道に努める。

- 2月17日(日)のダーウィンが来た！生き物新伝説「絶壁のクライマー！ボウズハゼ」を見た。全体的にうるさくて説明が多すぎた。もう少しじっくり見せるような番組にしてほしい。内容はよいので、ぜひ海外に向けても発信してほしい。

- 1月26日(土)と2月2日(土)のE T V特集 シリーズ移住 50年目の乗船名簿 第3回「異郷に生きる」、第4回「理想郷の行方～ある開拓詩人一族の歳月～」を見た。南米へ渡った家族を1968年から10年ごとに取り上げるという、NHKでなければできない力作で、すばらしい番組だった。過去の映像から映像技術の歴史も感じた。どの家族にもそれぞれ歴史があり、それを映像をとおして見るということに深い意味を感じた。人の容姿は歳月を経ると驚くほど変化を遂げることがわかった。
- 2月2日(土)の最後の講義「みうらじゅん」(BS1 後10:00～10:49)、2月20日(水)「物理学者 村山斉」(BS1 後9:00～9:49)を見た。みうらさんの講義は練りに練られた内容だった。村山さんも情報量の多い内容をととてもわかりやすく講義していた。番組では中身もよいが、魅力ある講義やスピーチとはどういうものかというものを示してくれている。学生が聞き入っている姿が印象的で、学生によく伝わっているのだと感じた。講師を探すのは難しいと思うが、ぜひ長く続けてほしい。
- 2月5日(火)のBS世界のドキュメンタリー選「プラスチック・チャイナ」を見た。経済発展が著しく爆買のイメージが強い中国、プラスチックのごみを集めている家族の姿をとおしてその実態を見て取ることができた。差別や貧困、教育の重要性、環境汚染の問題など、さまざまなことを考えさせられる、とてもよい番組だった。こういった番組を放送していることを評価したい。
- 1月25日(金)に再放送された釣りびと万歳「海藻で狙え！冬の絶品“イガミ”～ホリ 三重・尾鷲へ～」を見た。日本海ではほとんど見られないイガミを、ホンダワラという海藻を使ったユニークな釣り方で釣っており、楽しかった。釣りの場面だけでなく定番の魚介類の紹介やイガミ料理もあり、リラックスして見ることができた。一方で、釣りに挑戦した緊張気味のゲストに対しての周囲の張りつめた緊張感が気の毒に感じた。エンディングで「さあ、楽しい釣りの旅に出かけましょう」と言っていたが、あまり楽しそうに見えなかった。
- プレミアムドラマ「盤上のアルファ～約束の将棋」を見た。将棋界が注目さ

れている中での放送で、時期がよかった。A I が脚光を浴びた時期から一段落して、将棋は勝ち負けではなく人間同士の競い合い、ドラマがあるということが認識されてきた時期で、ちょうどよかったと思う。将棋の指し方や将棋盤、駒など細部に専門家の指導がいきっていた。

N H K 名古屋放送局
番組審議会事務局